

平成29年11月定例記者会見要旨（平成29年10月30日開催）

## 1. 衆議院議員選挙の結果に対する受け止め方と新政権に特に期待すること

このたびの衆議院議員選挙は、選挙が決まった直後からさまざまな野党再編の動きがあり、結果は、ご承知のとおり与党の大勝と報じられている。

今回の結果は得票率と議席占有率の乖離が生じ、一方の政党が大勝しやすいという小選挙区制度の特徴も、ある程度影響しているのではないかと感じているが、国民一人ひとりが、有権者として、みずからの1票を投じた結果であり、私が選挙結果の是非を論じることは、適切ではない。

香川2区においては、玉木雄一郎議員が当選された。日本の、そして地方の発展のため、大いに活躍されることを期待する。国政においては、まだ首班指名が行われていないが、政権与党が勝利したので、多少の修正はあるにせよ、基本的には、これまでと政策の方向性は変わらないものと考えている。

我が国は現在、本格的な人口減少・少子高齢社会の到来という、非常に大きな課題に直面し、安全保障問題をはじめ、さまざまな難題を抱えている。また、選挙戦ではあまり論じられなかったが、財政再建も非常に重要な問題であり、地方公共団体としても中長期的なビジョンを示してほしい。

## 2. 平成30年度予算編成方針について

本市の財政状況は実質公債費比率12.2%、将来負担比率は88.3%で、おおむね改善が見られるものの、県内他市と比較しても依然として厳しい状況に変わりない。また平成29年度より着手した新庁舎建設工事に伴う公共施設等適正管理推進事業債の元利償還金の増加さらに、平成26年12月開院した新病院建設に伴う公営企業債等に対する一般会計からの繰出金の増加も見込まれることから、今後の財政運営は非常に厳しいものと見込まれる。

こうした状況のなかで編成する平成30年度予算は、市税の減収が懸念されるとともに、地方交付税の減額も示されており、一般財源の確保については大変困難な状況にある。一方、歳出においては、少子高齢社会への対応などの市民福祉の充実、人口増対策や防災対策経費への重点配分等、多額の一般財源を必要とする事務事業が山積しており、極めて厳しい予算編成となる。

平成30年度予算編成の基本方針としては、これまで以上に施策の選択と集中を図り、将来を見据え優先順位を踏まえた事務事業の選択の徹底や、「第5次坂出市行財政改革大綱」の数値目標等の達成状況に留意すること、実施可能な事項については、適宜新年度予算に反映させること、経常的経費は、一般財源ベースで平成29年度当初予算額を上限とすること、投資的経費については、真に市民生活の質の向上、地域の活性化に資する事業に限定することなどとした。